

第20回「文芸思潮」エッセイ賞 中間発表 一次・二次・三次予選

●第20回「文芸思潮」エッセイ賞に御応募いただき、まことにありがとうございます。おかげさまで、日本全国から総数一九六編の作品をお寄せいただきました。心から御礼申し上げます。去る三月末日に締め切らせていただき、厳正な一次・二次・三次予選審査を行いました。その結果を謹んでここに発表させていただきます。

無印は一次予選通過者、○印は二次予選通過者、◎印は三次予選通過者です。

北海道

- 「ノアガーデン『エリザベス』」 栗山佳子
- 「花の都の悪い奴と人情」斎藤望
- 「その時が来ました」斉藤はな絵
- 「私の減量作戦」田賀せいし
- 「人間はこの世界の住人ではなく旅人である」 toolk
- 「ハッピーワイフ ハッピーライフ」 団周五郎
- 「パールとA-Iラブそして狐」 はなはな
- 「汗と涙の異国文化交流記」 星那木蓮
- 「セキレイ」 黒川喜代志
- 「嘘くさい」 綴 久我晃平
- 「ヒカリの蝶」

- ◎「鳩忌」 林 英二
- ◎「理想と現実」 蒼樹ほのお
- ◎「百日草」 中村郁恵
- 「いのちの電話全国行脚」 しらとみか
- 青森県
- 「泣いて馬鹿を斬る―公正についての考察―」 松橋充鷹
- 宮城県
- 「逃げるが鬱」 かすがえり
- 秋田県
- 「綿毛みたいな」 跡部佐知
- 山形県
- 「今年も咲いた赤いバラ」高橋敏
- 「心は火傷をしていない」 古瀬節子
- 福島県

- 「PTAと日本」 ふみちゃん
- 「パトカーよ、お前は」西島雅博
- 茨城県
- 「吉原エンジョイ」 物見遊山
- 「先祖を辿る」 田中 修
- 「下井草のアパート」 東方健太郎
- 「カウンセラーだより」草木あい
- 栃木県
- 「リアルを知らない」 風桜じゅん子
- 「制限の記憶」 菊屋紀子
- 群馬県
- 「投影」 村松佐保
- 埼玉県
- 「花と造花に見る美しさと不変」 剣城かえで
- 「C級ライセンス取得まで」 杉森 彰
- 「金閣寺という、技巧の仮面」 北川 聖
- 「梅雨明けの科学者のエッセイ」 森 竣祐
- 「初めて死にたくなったときのことを思い出した」 凍可宙夜
- 「弱虫な小鹿、絶望を吼える」 立竹落花
- 「犬のじゅうきち」 澤谷雄太
- 「春の出来事」 風間麗子
- 「虚無に抗う」 金子光輝
- 千葉県
- 「淋しさを埋めるために」心静賀
- 「ここで生きる」と決めて。 深山彌生
- 「時代」と共に歩む教えの脇道 平野靖雄
- 「月夜の夢」 沼田識史
- 「ゼロ番地の男たち」 桜藤 伸
- 「手話通訳士資格消除が受理されて」 横山典子
- 「今おばさんに伝えたいこと」 古池真矢
- 「細やかな日常」 水縹 晶
- 「届かぬ思い」 すぎき砂子
- 東京都
- 「住民運動と介護、中村亮嗣の奮闘記」 黒岡 實
- 「死にたいマン」 辻 紗樹
- 「パソコンに危険ウイルスが侵入？」 牧 康子
- 「おっぱいへの思い入れとは？」 香湖さきり
- 「私を生きる」 神山洋平

第20回文芸思潮エッセイ賞予選通過者発表

- 「外灘今昔譚」 びわしゅ
- 「親が子に伝えるもの」風樹 茂
- 「希望」 anelako
- 「最後の『お引越』」九条之子
- 「咳と生きる」 南 俊貴
- 「どうなる時代劇」 林 純一
- 「束の間の平和」 竹中水前
- 「ハインラインの思い出」 カニカマ侍
- 「帰り船」 鈴木是和
- 「医師の人間性と医療の可能性」 新時代造
- 「私のオレゴン日記」 野宮健司
- 「父の戦争体験」 太田邦夫
- 「異物の孤独と沈黙の救い」 十文字斎
- 「赤い旗とジャガリコ」武藤蓑子
- 「雪の日、長岡にて」 瀬取山泉
- 「男尊女卑に感謝する」さちえ
- 「津島中学校吹奏楽部、あの子たちは今」 長瀬清正
- 「記録と記憶」 吉澤奈々
- 「根のはなし」 まもなか
- 「嗜虐心」 小松正樹
- 「ゾーニング!!」 汐見 駿
- 「カサカサの手のひらと共に進むこと」 あいだもえ
- 「老けない男」 藤原章生
- 「ラムネ」 山田 牧
- 「サウナと私」 金子漱石
- 「羹に懲りて膾を吹く」内藤栄介
- 「はじめての外国は、ドイツの小さな町だった」 田山野恵
- 「あなた批判」 川口諒大
- 「ダディとの思い出」 圓川 潮
- 「忘れてしまふまに」色透ふう
- 神奈川県
- 「異空間」 城殿悦生
- 「私の整理整頓方法」 飯島 均
- 「名もなき先人らの受容力」 石井哲也
- 「10年前のラブレターたちへ」 須山琴乃
- 「身分不相応のジュエリー」ちせ
- 「ハチ公と日本人」 長堀 篤
- 「原爆画家と開襟シャツ」 木内是壽
- 「子どもの発達と愛着形成」 秋谷 進
- 「ぬるり、の前に見えたもの」 雛田チコ
- 「できればレターバックで」 立川泉北
- 「SNSの中の友人」 旭 美香
- 「父とすいとん」 小倉一純
- 「一粒の苺」 三浦美咲
- 「着物の人になったら人生が楽しくなった」 岡本りょうえ
- 「江戸戯作者たちの抵抗文学と意志を継ぐものたち」 峯丘夏緒

- 「夢日記」 網白まこと
- 「紡ぐ記憶と光」 中久保佑樹
- 「和倉温泉の思い出」関根歌さんのことなど」 わかさきまさのぶ
- 新潟県
- 「情報分析」 松浪 丞
- 富山県
- 「ふたりとひとり」 鶴原奏音
- 「あなたも大変やね」 小倉孝夫
- 「敬語という距離」やまもとゆり
- 石川県
- 「震災は我が魂に及び」酒井恵三
- 「父と釣り竿」 渡瀬千華
- 「半分休み」 明石弘貴
- 山梨県
- 「新聞配達」 田中浩司
- 「趣味は俳句」 中井 充
- 「湯たんぽのような温もり」 佐高 源
- 「運と運命」 三ノ輪龍泉
- 「湖畔で胸タッチ」 ふきのとう
- 長野県
- 「おんまかきやろにきやそわか」 山家衛良
- 「奇跡の九九歳」 Akira
- 「されど哀しき回転寿司」 丸山敦子
- 「一枚の絵画」 山崎こうせい
- 「自分探しの旅」 成田 茂
- 「昼行燈」 澤井樹生
- 「悲しみの中のラブソング」 秋葉みのり
- 「あの日あの時の見守り隊」 平岡佐一郎
- 「愛の夢 第三番」 石井 妙
- 「9から10へ」 吉永旬那
- 静岡県
- 「変な家」よりも変な家」 続 苺香
- 「左利きと四女の彼氏」 芹澤志津夫
- 「言葉と力と自由」 和田咏子
- 「強迫性障害と二十年付き合っ」 室伏三鶴
- 「納税は美德？」 さとうともえ
- 愛知県
- 「白い十字架を持つ毒婦」 菱川町子
- 「サルサに溶けて」 丹波蔵堂
- 「その一言が言えない」宮尾美明
- 「正義のための平和」 新風 航
- 「人生において、確率は収束する」 其扇よひら
- 「何かと物入りで、リングル係数？」 天城囀一
- 三重県
- 「私の存在意義、言葉を紡ぐこと」 伊藤裕子
- 「私は私を生きる」 木岡愛子

エッセイ賞応募者の皆様へ 第一次・第二次・第三次の選考基準について

●第20回「文芸思潮」エッセイ賞への御応募まことにありがとうございます。第一次・第二次・第三次選考について選考委員会より付記させていただきます。

第一次の選考基準は、他者に対して伝わる文章になっているかどうかが最重要の基準点です。しかし書く姿勢も加味させていただきます。少し文章が粗くても、他者に訴えたい切実なものが感じられる作品は一次を通過しています。また逆に文章は整っていても、書く姿勢に曖昧なもの、書く必然性が希薄なもの、中途半端なものは落とさせていただきます。この二点をクリアしたものが一次予選通過者です。何%とか、何篇以内とか、数字の枠はありません。したがって、応募者全員が一次予選合格ということもあり得ます。

また第二次予選は、その中でさらに強く何かが感じられるもの、光るものが選ばれます。何かが読み手の中に残っている作品ということになります。内容でもいいですし、文章でもいい、一行でもいい、一人の人物でもいい、見方でもいい、何か一つ心に残るようなものがあると、上に拾い上げたくなくなるという、一つの魅力を持っているかどうかポイントになります。

第三次予選は、よりたくさんの人に読んでほしいくなるような普遍的な力を備えているかが、選考の基準になります。第三次予選まで通過した作品は、だいたい雑誌に載ってもいい、人に読んでもらっても何か訴える力を備えていて、読んだ人の心に何かが残って新たな力になるような作品です。

「文芸思潮」選考委員会では、選考の便宜性を重視して作品数によって制限するのではなく、作品の内容を重視して、優れた作品がたくさんあれば、できるだけその作品の価値やレベルによって、作品を残すよう心がけています。したがって、場合によってはたくさん作品が三次予選、さらにその上に選出される可能性もあります。

今年第20回も三次予選通過者が多く、応募作品全体の水準が上がっていることを実感しております。

もつと詳しく御自分の作品への感想・批評が公開になりました方は、作品個別の「批評コメント」もご利用いただけます。どうぞ御希望をお送り下さい。

〔「文芸思潮」エッセイ賞選考委員会〕

- 滋賀県 ○「あの時が過ぎて」 木村敬子
- 「私を導くことば」 おにぎり
- 京都府 ○「愛するということを知ること」 梅村琴音
- 「憧れの槍ヶ岳（三一八〇メートル）」 崔宣葉
- 「特別ではない補助」 二階堂弘美
- 「時空を飛ぶパピヨン」 植田郁子
- 「なんだかなあと思うこと」 ドンゴロスの飼主
- 「脳梗塞からのメッセーじーピカの絵を通して」 林 須磨
- 「黒のパーカー」 岩田知大
- 「眉村ゼミの事」 三日月ユキ
- 「思い出に溶けて」 鈴成 十
- 大阪府 ○「家」 伊槻 散
- 「坂本龍馬は『株式会社と複式簿記』を知っていたのか」 久井孝則
- 「今晩から、デンキつけてもええんやって」 柴森義孝
- 「真冬のソフトクリーム」 大野美子
- 「心の渇き」 和泉勇希
- 「樟脳の香り」 佐伯厚子
- 「易行の浄土教」 森崎律子
- 「お姉ちゃん」と呼んで」 田中美晴
- 「高度成長期前後の電話事情」 今井清賀
- 「ニューヨークとアイ・ウェイウエイ」 稲垣悦子
- 「常盤平団地」 山田まさ子
- 「東京」 三戸 紡
- 「可哀想な奴は誰か」 高倉香月
- 兵庫県 ○「荒川河川敷の一騎打ち」 太田悠
- 「原風景」 朝日のか
- 「宗教二世」という偏見」 吉川真理花
- 「何者にもなれなかった私は」 misato
- 「ローファーは脱いで」 ひまり
- 広島県 ○「姉と私は被爆二世」 石橋いづみ
- 山口県 ○「その秋の空、深い碧」 るぽ
- 徳島県 ○「四人目のジンクス―屋根上のねこの独り言―」 福山由美
- 「ドロロ」 だー」 富登千恵子
- 香川県 ○「軍盆」 高島 緑
- 愛媛県 ○「まさかのボランティア三昧」 比戸 圭
- 福岡県 ○「花に逢う人」 西尾 吉
- 「はじめてのおつかい」 安部としき
- 「父親百態」 はるひ
- 「人道的競争の時代へ」 神崎淳子
- 「タメ人間正機説」 安井 健
- 「Hanakuso, that saves humanity」 全 林子
- 「父の二つの名前」 米山佳寿美
- 佐賀県 ○「不便を楽しむ」 松尾なおゆき
- 熊本県 ○「戦争の傷跡は三代続く」 りり・千津子
- 大分県 ○「プリズンの一夜」 祖峰 傾
- 「Pinkとブルー」 江倉リユウ
- 鹿児島県 ○「ようこそ我が家へ」 ネンキレイスイ
- 「悔恨」 澤 佳男
- 沖縄県 ○「明美という名の男」 新垣景和
- 「卒寿の波乱を乗り越えて」 村越千代子
- 「私はここにいます」 橘 夢
- 「対馬丸を辿る数奇な運命」 琴森 戀
- 海外 ○「繋がった円―地中海の夏の思い出―」 松岡 環
- 「どっかのアジア人、それでも日本人」 荘百合子
- 「十周年結婚記念日」 茂木麻子
- 「秋葉山の大祭」 森村美穂



小説の書き方を体験を踏まえて丁寧に解説する小説指導書

小説の書き方

——作家を志す人のために——

五十嵐 勉

税込 1000 円 御注文はアジア文化社まで